

論考

柏崎刈羽原発の再稼働を許してはならない

漆原 牧久

(つるしばら まきひさ 68歳、
市民運動ボランティア)

今、経済産業省と東京電力は新潟県かしわざかりわの柏崎刈羽原発の再稼働に躍起だ。10月16日には東電の社長が新潟県議会に乗り込み、東電が新潟県に対し1000億円規模の資金を拠出する方針を伝えた。これについてある新聞は、野党議員が「県民の頬を札束でたたくようなものだ」と言ったと伝えたが、全くその通りだと言わなければならない。

9月11日、東電本店前で柏崎刈羽原発再稼働を止めようと訴える集会が開かれ、そこで新潟県在住のある女性がこう発言された。

「福島事故があった時、私は山の中のある町にいましたが、そこで原発の話をするとお年寄りが泣いて私に訴えました。『うちの息子は東電に行つて

いるけれども、福島事故の住民へのお詫びの行脚に駆り出されて、毎日のように血を吐いている。そんな東電社員をお前は糾弾するのか』と言われました。

原発関係の社員だけではなく東電の社員の皆さんが、原発が事故を起こしたら大変な思いをされる。家族も大変な思いをされる。私たちは東電の皆さんとともに柏崎刈羽原発の再稼働を止めたいと心から願っています。どうぞ東電の皆さん、東電に原発をやめさせてください」

この新潟の女性の発言で明らかによろしく、原発の使用は大変罪深いことである。事故が起これば住民や関係者は塗炭の苦しみを味わう。かりに事故が

起こらなくても、原発は通常運転を続けるだけで処理困難な使用済み核燃料を生み出す。原発の再稼働は、将来世代への負の遺産を増やす愚かな行為である。

柏崎刈羽原発で発電される電気は、原発立地の新潟県ではなく首都圏で消費される。その構図は福島第一原発と全く同じである。首都圏に住む私たちが柏崎刈羽原発の再稼働を黙って見過ごすことは、フクシマを繰り返すことにはかならない。首都圏で使う電気のために新潟県の方々を危険にさらし、そこに関わるすべての人々を不幸に陥れる再稼働を、私たちは絶対許してはならないと思う。

私自身は東京都民だが、柏崎刈羽原

発の立地・新潟県には縁がある。もう45年も前のことになるが、大学を出て就職した際の最初の赴任地が新潟県だった。最近の柏崎刈羽原発再稼働への動きを見るにつけ、当時お世話になった新潟県の方々の顔や美しい風景が脳裏に浮かび、居ても立つてもいられなくなった。

そこで私は「柏崎刈羽原発動かすな」と訴える集会を、毎週金曜日（通常18時15分～19時15分）に東京・永田町の首相官邸前で行なうことを思い立ち、10月24日から行動を始めた。

可能な方はぜひ参加いただきたい。集会には参加できない方も、それぞれ可能な方法で再稼働に異議を唱える行動をとっていただきたいと思う。